
【テキスト中に現れる記号について】

《 》：ルビ
(例) 生海苔《なまのり》

[#]：入力者注 主に外字の説明や、傍点の位置の指定
(数字は、JIS X 0213の面区点番号、または底本のページと行数)
(例) 大きい [# ローマ数字VI、1-13-26]

カフエ

僕は或カフエの隅に半熟の卵を食べてゐた。するとぼんやりした人が一人、僕のテーブルに腰をおろした。僕は驚いてその人をながめた。その人は妙にどろりとした、薄い生海苔《なまのり》の洋服を着てゐた。

虹

僕はいつも煤《すす》の降る工廠《こうしやう》の裏を歩いてゐた。どんより曇つた工廠の空には虹が一すぢ消えかかつてゐた。僕は踵《かかと》を擡《もた》げるやうにし、ちよつとその虹へ鼻をやつて見た。するとかすかに石油の匂がした。

五分間写真

僕は或晩春の午後、或若い海軍中尉と五分間写真を映しに行つた。写真はすぐに出来上つた。しかし印画に映つたのは大きい [# ローマ数字VI、1-13-26] といふ羅馬《ロオマ》数字だつた。

小さい泥

僕は或十二三のお嬢さんの後ろを歩いて行つた。お嬢さんは空色のフロツクの下に裸の脚を露《あらは》してゐた。その又脚には小さい泥がたつた一つかすかに乾いてゐた。

僕はこのお嬢さんの脚の上の泥を眺めて行つた。すると泥はいつの間にかアメリカ大陸に變つてゐた。山脈や湖や鉄道も一々はつきり盛り上つてゐた。

僕はおやと思つてお嬢さんを探した。が、お嬢さんは見えなかつた。僕の前には横須賀軍港がひろがり、唯一面に三角の波が立つたり倒れたりしてゐるだけだつた。

[# 地から2字上げ] 旧稿より

底本：「芥川龍之介全集 第十三巻」岩波書店

1996（平成8）年11月8日発行

入力：もりみつじゅんじ

校正：林 幸雄

2002年1月26日公開

2004年3月17日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。